

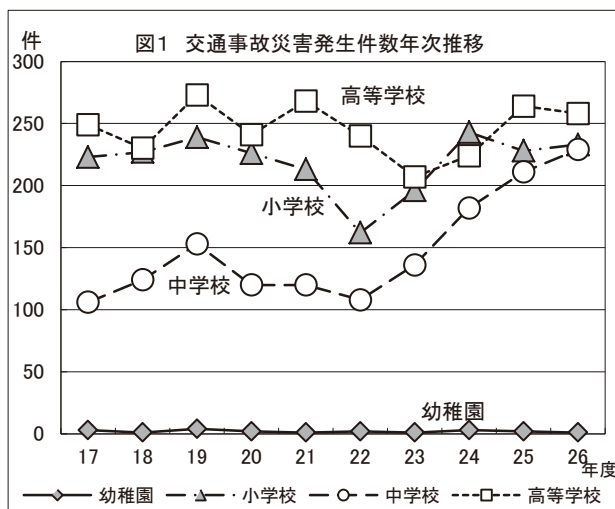
# 1 京都府の交通事故災害

## (1) 交通事故災害発生件数年次推移

図1は、京都府内における学校、幼稚園の交通事故災害発生件数の年次推移を示している。

(京都市立、私立を除く。以下、図2、図3、図4も同じ。)

平成26年度は、前年度に比べて幼稚園、高等学校は減少しているが、小学校、中学校は増加している。過去5年を比較すると、小学校、中学校、高等学校は、増加傾向にある。全国的に児童生徒等の人数が減少している中、交通事故発生件数が増加していることは、極めて重大なことから受け止め、指導の徹底を図る必要がある。



## (2) 交通事故災害状況別・発生別割合

図2は、京都府内における学校、幼稚園の交通事故災害の状況別割合を、図3は、交通事故災害の発生時別割合を示している。

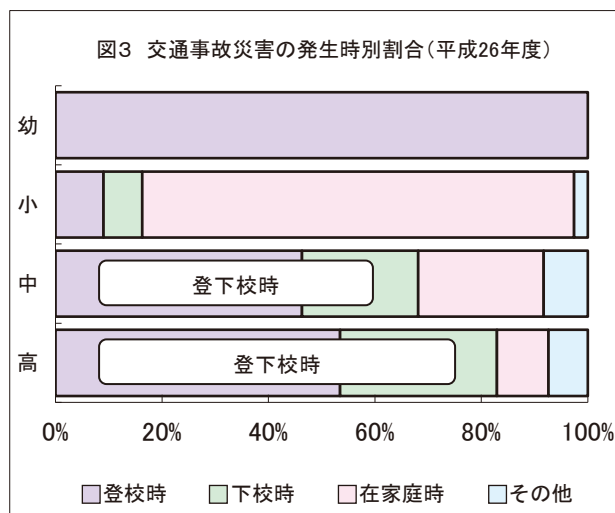
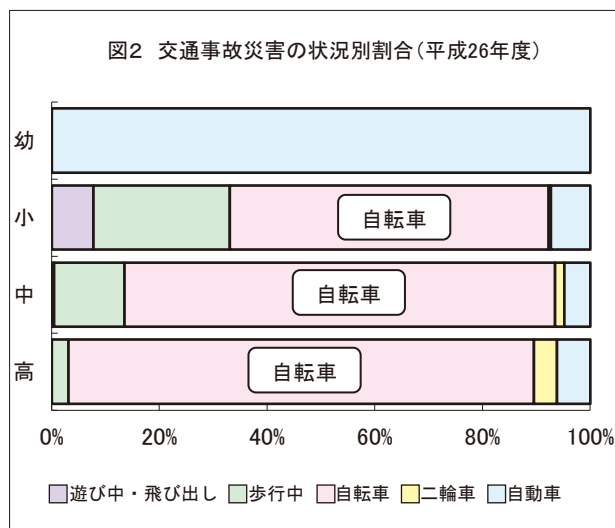
状況別割合は、全校種において自転車運転中(含同乗)の事故が多く、中学校、高等学校では、ともに約8割を占めている。

発生別割合では、通学に自転車を利用する生徒が多いという状況もあり、中学校、高等学校の交通事故の多くが登下校時に発生している。

自転車運転中(含同乗)の事故が多く発生していることを踏まえ、改正道路交通法に伴い平成27年6月1日から始まった「自転車運転者講習」制度の対象となる危険行為14項目や自転車安全利用五則の内容を含め、自転車の安全な乗り方や点検・整備の仕方、ルールへの遵守等について、警察等関係機関と積極的に連携するなど、幼稚園から高等学校まで継続的な自転車交通安全教育の指導の徹底を図る必要がある。

さらには、自転車運転者が加害者となる事故も増えてきており、賠償問題等を含めた交通安全教育も必要である。

なお、小学校においては、運転の技術



を高めるために、警察署、P T A等との連携のもと「自転車運転免許証」の交付を伴う自転車交通安全教室の実施が実施されている。高等学校では、京都府が実施する「自転車安全利用推進員制度」を利用し、生徒がリーダーとなって、自転車の安全利用を推進している。

### (3) 交通事故災害の月別発生状況

図4は、京都府内における学校、幼稚園の交通事故災害の月別発生状況を示している。

平成26年度は、小学校では6月、10月、中学校では6月、7月、高等学校では5～7月、9月の事故が多くなっている。

学年別の状況は、小学校では発生件数に学年による差は見られないが、中学校では1年生、2年生に事故が多く、高等学校では1年生に事故が多く、学年が進むにつれて減少している。

男女別の状況は、小学校では約8割が男子、中学校では約6割が男子の事故であり、高等学校では女子の方が多い。

各校においては、自校の月別発生状況に基づき、年間のどの時期に交通安全教育を実施することが効果的であるかを検討し、年度当初、梅雨の時期、夕暮れが早くなる時期など各時期に応じた指導の徹底を図る必要がある。

